



予告

いわて環境王国展2009

開催テーマ 『**見つけよう！岩手の エコデカラ
はじめよう！岩手のエコアクション**』

日 時 11月7日（土）9:30～17:00
8日（日）9:30～16:00

場 所 アイーナ（いわて県民情報交流センター）

主な内容 神山浩樹氏&後藤のり子氏トークショー

森永卓郎氏（経済アナリスト・独協大学教授）トークショー

見城美枝子氏（青森大学教授・エッセイスト・ジャーナリスト）講演会

高木 浩一（岩手大学工学部准教授）かみなり博士エコサイエンスショー

・NPO・行政等展示・環境技術・製品展等展示

・環境紙芝居・参加型体験教室など

※詳細は岩手県ホームページをご覧ください。

ESD東北フォーラム2009in盛岡

いわて環境王国展併催イベント

開催テーマ 『**持続可能な未来をつくる学びあい**』

日 時 11月7日 9:30～16:00

場 所 アイーナ8階812研修室（いわて県民情報交流センター）

主な内容 玉 真之介氏（岩手大学副学長）基調講演 世界のESD、日本のESD

岡山市職員&仙台市広域圏による先進地区からの話題提供

岩手県幼小中高専ESD円卓会議

鹿糠敏和氏 「南極から地球の未来が見える」報告など

ESDとは！

人と地域と地球の未来を考えて行動できる人になるように
学びあいましょうということです！

いわて環境王国展・ESD東北フォーラムのイベントには
環境パートナーシップは実行委員メンバーになっています。

総会 終わる

6月現在会員数208名（個人148名、市民団体15名、事業団体36名、行政9名）
平成21年度総会出席者49名委任状83名
合計132名で総会成立。

ご来賓に環境生活部長 松川求様（岩手県知事代理）よりお励ましのご挨拶をいただきました。議事次第に沿って活発な質疑が交わされ盛会裏に終わりました。



環・境・通・信

企業訪問

- ・訪問先 いわて生活協同組合
- ・所在地 本部：岩手県岩手郡滝沢村滝沢字土沢22-3
- ・取材協力者 岡村 治氏
(経営企画スタッフ環境活動担当)

環境理念

いわて生協は、地球の未来に責任をもつための行動を積極的にすすめ、生産・流通・消費・廃棄までの全過程にわたって、環境負荷低減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型の社会づくりをめざします。

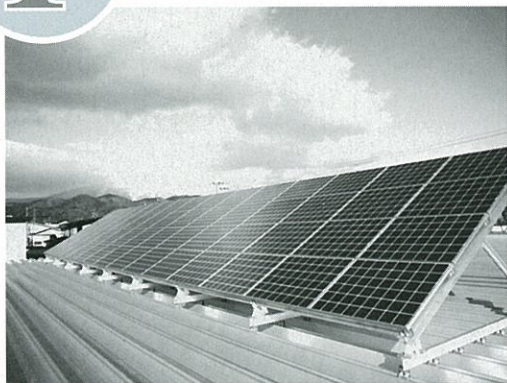
そうした中で、私たち一人ひとりが人間として、地球市民として、ライフスタイルを見直し、組合員と一緒に「持続可能な社会を実現する」ために率先して取り組むとともに、環境保全型社会システムづくりへの積極的な提言なども行い、社会に貢献できるようにします。



CO₂排出400トン

削減目標めざします！

店舗などを含む照明・節電システムの導入・自販機の削減・バイオディーゼルの使用拡大・太陽光発電など



レジ袋節約50%以上に！

レジ袋の節約率はこの3年間で45%～50%に高めることを目標。2月度全店平均節約率49.7%まで向上。目標まで0.3ポイントに迫る。

…1,000円以上お買い上げでレジ袋節約の方に、もれなく節約5ポイントプレゼント…



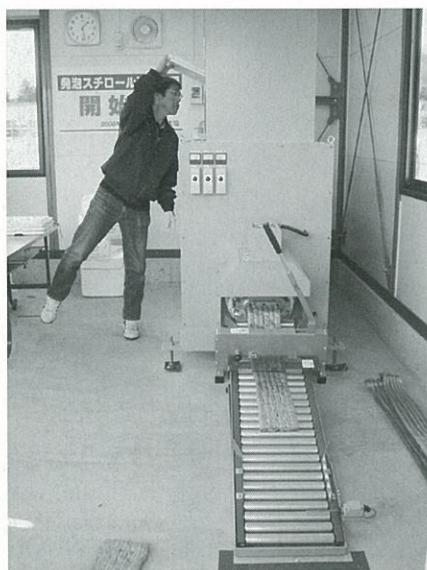
発泡スチロール減容リサイクル

3

発泡スチロール箱を電気溶解で減容リサイクル

(有価物として売却：1kg40円位)

産業廃棄物が減りゴミを出さない事業へとまた一歩前進。経費削減にもなり経営全体に貢献。



エコデンパッカーで $\frac{1}{60}$ に減容し売却

環境かべ新聞で見える化表現

4



発泡スチロール減容リサイクルが11月からスタート
当面SC、PC、家電センター分を処理

現在産業廃棄物として委託費(1kg50円)を払って処理している発泡スチロール箱を、電気溶解で減容リサイクル(有価物として売却：1kg40円位)する取り組みが始まります。発泡スチロールは実は98%が「空気」です。これを体積を60分の1まで小さく(減容)し、運搬しやすくしてリサイクル(有価物として売却)します。これにより、産業廃棄物(マニフェスト)が減りゴミを出さない事業へまた一歩前進します。また、経費削減にもなり経営全体に貢献します。

当面、本部事業所の分を処理しますが、設備の運転が安定しだい盛岡店舗分の発泡スチロール処理へ進めることにしています。

※この事業は「岩手県地域ゼロエミッション(ごみゼロ)推進事業」の補助金を受けます。176万円が交付される予定です。



毎日、大量に発生する発泡スチロール。現在は「お金を払って」処分し

11月からはこの「エコデンパッカー」で1/60に減容して「売却」します。

取材：渡邊彰子・佐々木聡

・平成21年3月6日(金) 14:00～

市民提案プロジェクト



平成21年度自主事業が
決定しました



担当理事 中屋 重直



経過報告

環ぱい21年度自主事業は、検討委員会を設置して決めることに6月28日第6回総会で決議されたことを受け、三役会議においてその検討委員会は「市民提案プロジェクト実行委員会」として発足させ、検討結果を8月中旬に理事会に提案することになった。

同実行委員会は第1回7月26日、第2回8月9日、第3回8月21日に開催され、提案する事業の内容と

予算に関する原則、周知呼びかけの方法などを決めた。その上で、会員参加による企画提案発表会を8月23日（日）に実施し、これには会員14名が参加した。

同日、第4回委員会を開いて、出席会員の賛同が得られた次の事業に予算案を付け、同日午後の理事会に諮った。

事業の内容は出席した理事が代表者に代わって補足説明し、合計24万円の予算案とともに8事業が承認された。

事業の名称	代表者	予算額	支出の内訳
1、アイーナ夜学	佐藤 清忠	1万円	展示パネルの制作費として
2、環境フォーラム・ポスターセッション 「わたしたちが創るいわての未来」	櫻井 則彰	5万円	ポスター設備、広報チラシの作成
3、地球温暖化防止県民集会 「地球温暖化防止に関して何をすべきか」	横山 隆三	5万円	環境省補助でまかなえない経費、すなわち広報印刷と謝金
4、レジ袋削減を広める県民会議	渡辺 彰子	10万円	県民1,000人アンケート調査とフォーラム開催
5、「エコクーポンつきエコマップ」 普及拡大プロジェクト	佐藤すみ子	3万円	講演会の講師謝金、交通費。この講演会は環ぱいによる事業であることを明記し、会員に開催のお知らせを出すこと
6、水道資源を学ぶ 「エコトープの森の創造」	古澤 元雄	0円	今年度は具体的な額は要求せずプランを進める
7、いわての森からの贈りもの i-systemプロジェクト	高橋昇一郎	0円	過年度から継続中
8、バイオディーゼル燃料普及と 減クルマ市民運動	細川 光正	0円	具体的な額は要求せず

環境
工房
宮古

高橋壽正

私は、環境パートナーシップいわてが期待されているものは、「環境に志を持つ個人のプラットフォーム」だと思います。県庁や各団体の集積している盛岡にあって情報が入るわけですから、いろいろなNPO団体であっても分担していけるような場を作ることが大事だと思います。

細田孝高

創成期には各種団体の相乗効果を狙ったものだったはずであるが、今は事業の実施にウエイトが移っているように見える。これは仕方のないことだが、皆で集まって「いろいろな事をやろうと思ったあの頃を皆で思い出してみようか！」例えば、情報や活動の報告を整理して提供するとか、環境パートナーシップいわての資料は自由に使ってよいという事が大事である。・・・一時無断転載はだめとか転用を禁ずるといった事があったようだ。それから、私も「チームマイナス8%」の一員と考えているのに違う団体と認識されているような感じがします。私も「チームマイナス8%」一員と思って考えているのに一線を画して下さいといわれるのは寂しい事です。

司 会 (渡辺)

会員になれば誰でも協力し努力したいものです。

団体の情報をどうすれば広げることができるか、このあと情報提供のところで掘り下げていきたいと思います。

長澤 幹

私は理事をやったものとして、活動の難しさを感じております。今の環境パートナーシップいわてのスタッフはビジネスライクではなく、かなりオーバーな業務を善意でやっています。これ以上の業務は要望があっても無理な面があります。今、「環境学習交流センター」と「地球温暖化防止活動推進センター」の県委託事業をやっているほかに環境省からの委託事業もあります。私は、環境パートナーシップいわては、今やっているこれからの事業を軸に県民啓発するということで十分であり、このほかに新しい事業をするのは無理があると思っています。

140万人県民がいる中で200人そこそこの会員のなかでぐるぐる情報を回していたって何にもなりません。

会員の枠をはずして会員以外へいかに働きかけていくかという議論が大切だと思います。

私事です、最近NHKの番組で「環境と経済をかんがえる」という公開討論会に出演しました。その中で感じたのは、日本人は経済中心で自己中心だということです。「カネさえあれば世の中どうなっても良い！」という意識は何だと思って帰ってきました。

環境問題は、総論賛成各論反対のテーマのようです。全体では「地球温暖化は大変な事だ！」と言いながら、一人ひとりの立場になると「俺一人ぐらいどうでもいいや」という論議になってしまう。俗にいう「ゆでガエル」となっているのに気がついていない。だから、環境パートナーシップいわてとしては、実態を啓蒙する活動に軸を置いて進むべきであるし、その軸も今の受託事業を軸に活動してよい。はみ出してやるのは資金的にも人的にも大変負担になると思っています。

私もは会員を含めてそうした認識をもってこの活動を見守っていくべきだと思います。

司 会

今の長澤さんのご意見には環境パートナーシップいわての事業の進め方や情報発信に関わる部分もありましたので、次のテーマのところでご意見をいただきたいと思います。

佐藤清忠

アイーナ夜学を毎年実行しているものです。環境パートナーシップいわてはシンクタンクとしての使命があると考えています。昨今学生に教えていると環境に関する情報が欲しいと思うことが結構あります。何処に行けば必要なアドバイスが受けられるのか教えてもらいたいと思うのです。

こうしたことは片手間に出来ることではなく、大変な事業だと思うのですが環境パートナーシップいわてならできると思う。夢物語みたいですが『環境パートナーシップいわてに行けば環境に関するあらゆる情報があって、いろいろなアドバイスや支援が得られる！』…いかがでしょう。是非考えてください。

司 会

確かに以前に中間支援的役割を担おうという意識で出発した経緯がありました。

村井 宏

環境パートナーシップいわてを立ち上げるとき「使命は何か？」を1年間議論し「環境に関する活動団体あるいは個人のパートナーシップを行なうことが使命である」とされました。

私は、現在環境パートナーシップいわてがやっていることの中で環境パートナーシップいわてでなければ出来ないものとそうでないものの2種類の活動をやっていると思います。そういった活動の中で環境パートナーシップいわてでなければ出来ないものを

**環境パートナーシップいわて
めざすものは何か！
情報提供のあり方など
徹底的に
話し合っ
てもらいました！**



見失ってもらいたくないです。そうでないとどこの団体がやっても同じ事になってしまいます。

では、どういう事かといえ、パートナーシップというけれども、県内の環境団体の連携の中で生きていくということ、個人的にもいろいろな異業種の人々が集まっているので、まとめるのに苦勞するかも知れないが、いろいろな議論を重ねて進んでいくことが大事だと思います。

司 会

環境パートナーシップいわてとして出来ることを見直すということですね。ありがとうございました。

高橋大等

個人や団体のアイディア活動があって面白かったという話は聞きますが、どうも、そういった行事計画や活動計画のニュースが伝わってこないことが多いので、出来るだけ流して欲しいと思います。

それから、そういった活動等には

司 会

情報伝達の方へ話が進んできていますが、後ほどその件は議論したいと思います。

それでは、次のテーマ自主事業と受託事業をどのように調整して進めていけばよいのか、に移りたいと思います。

今、『環境パートナーシップいわての事業は多岐にわたりすぎていないか?』と意見もありますが、皆さま如何お考えでしょうか。

高橋壽正

自主事業の財源は50万円しかないのだから、自主事業は出来ないものはしかたがないと思う。

長澤 幹

資金がないのにあれもこれもと欲張るのは無理です。実際に自主事業をいろいろやっている方々の苦勞をみていると、これ以上は無理だと思います。資金を改善できるのであればいいのだが、何か方法はあるのか? プライオリティーはあるのか。

横山代表

財政では会員全部から会費を頂いても60万円しかありません。事務局費やスタッフの費用それにニューズレターの発行にはとても足りません。受託事業からいくらか援助を受けて間に合わせている状態です。それに、今の県からの受託事業は財政的に大きな比重を占めるものですが、県の意向のなかで事業を進めなければならない性格のもので予算的にも自由度がありません。実際にスタッフの事務費の現状は県の平均を大きく下回ってます。

こうした中で、私ども三役はスタッフともどもボランティアとしてではなく受託事業と自主事業を合体させながら、事業を進めなければと考えているわけです。

佐々木明宏

受託事業の中にはNPOとしてのミッションに合致したものがあります。あるいはそうではなくて運営の資金にプラスとなりうるものもあります。自主事業を受託事業とドッキングして進められないか?ということも三役会議で出されています。

しかし一方で、自主事業は自主事業としての大事な役割があるものと考えられるので、予算がないからといって止めるわけにはいかないものもあります。例えば「市民提案プロジェ

クト」などは、予算規模が少なくとも続けてやりたいと考えております。

長澤 幹

受託事業は自主事業と組み合わせれば活用できると思う。センターの内容や目的からすれば、同じ方向を向いていることになりますから、環境パートナーシップいわてとしての自主性や独自性が入ってもいいことだと思います。

司 会

自主事業を見直す時期に入っているということですね。

横山代表

「アイディアコンクール」は子供たちから、絵や作文そして壁新聞などによる環境にたいするアイディアをだしてもらっているのですが、「一村一品事業・知恵の輪づくり」は大人からアイディアを出してもらうので同じ発想である。またキャンドルナイトはセンター事業としてもやっているのドッキング可能です。以前は自主事業を盛岡以外でも実施していましたが、最近は盛岡周辺に限られています。受託事業と一緒にやり、会員に参加してもらえれば全県規模になると思います。

司 会

それではここで、実際に自主事業を担当されている方からご意見をいただきます。

及川愛子

アイディアコンクール担当の及川です。以前は受託事業の中にアイディアコンクールがあり、個人や学校から広くアイディアを集めることが出来ました。

自主事業になってから、予算の関係もあり一般に呼びかけができなくなってしまいました。今年は、アイーナで表彰式を行ないましたが、学校、父兄、地域ぐるみの表彰式となり、環境に関する質疑応答もあって大変好評で効果もあったと考えております。こういったことも考えにいれながら「一村一品・知恵の輪づくり事業」と一緒に事業になれば面白い企画ができそうで大賛成です。

田村みどり

キャンドルナイト担当の田村です。経緯といたしましては、全国規模のキャンドルナイトでスローな夜の提唱者である辻信一先生をまねいての開催



環境パートナーシップいわての役員の方たちが、代表で出席していると思うのですが、それらをまとめた冊子が欲しいし、出来れば団体ごとに「この団体は昨年こうした活動をしました。今年はこうした活動をします。」といったことをまとめた報告書も欲しいものです。つまり各団体の中身の紹介ですね。そうすれば、私どもも参加してみたくなくとも思います。

がはじまりでした。

方向性としてはコンサートも入り「センターでのキャンドルナイト」できています。地球に優しい感じのイベントでソフトな静かな夜を演出できていると思っています。

また、県内各地で一斉にキャンドルナイトが開催されてきているのもうれしいことです。

今後、自主事業と受託事業が一緒に開催することになればありがたいことだと考えております。

司 会

発展的な活動として展開したいということですね。それでは自主事業としては他にどんなものが考えられるのでしょうか？

田村みどり

国際交流協会、NPOの方々と話し合うことがあります。「センターには、各団体の紹介コーナーがあるが、各団体の活動実績がはいつているファイルが欲しい」という声が聞こえてきます。県下の環境活動の状況や計画がわかる資料の整備があればいいですね。また、ラジオ番組に10分ぐらいでもいいですから「今週の環境情報の時間です」といった番組を作れないでしょうか？

長澤 幹

基本的に会員拡大の取組が先決だと思います。今の会員200人を400人にすれば会費収入は倍になります。行政人、企業そして地域の人々などの切り口を考えた会員拡大へ向けての取り組みが第一ではないか！当然、情報発信の拡大の必要ともつながります。

高橋壽正

今、政府の補正予算の中での補助事業にはかなり何でもありのようである。「ふるさとの雇用促進」も、「人材補給に資金」もある。環境パートナーシップいわても県や市に対してアイデアを出して資金提供を受けることも努力してはどうでしょう。

小原勝博

会員の拡大が急がれますね。担当者を決めて積極的にやることです。それには事業の在り方も見直すべきです。

例えば、製造会社は製品を作り売れば会社名が広がる。広まれば製品も売れるし良いものも作れる。といったサイクルが生まれます。自主事業そのものも工夫して人がより集まるものにし、集まったら会員獲得につながる……。つまり会員獲得の窓口の一つと考えるべきである。

高橋壽正

環境パートナーシップいわてが発行した広報誌に「無断で複製を禁ずる」とあるのはおかしいのではないのでしょうか？「ご自由にお使いください」とした方が良くと思います。

工藤 浩

「てとて」の中にも会員募集の記事を入れては駄目といわれているようであるが、場合によるのではないか？

盛岡の会員が宮古の会員を応援するようなことも考えるべきである。民間から始まったキャンドルナイトを公共団体や企業サイドに働きかけることも環境パートナーシップいわての仕事ではないでしょうか。

司 会

活発なご意見ありがとうございます。残り時間が少なくなってきました。すでにいろいろとご意見がでております。あらためて情報提供についてご意見をいただきたいと思います。

田村みどり

私は、環境に興味のある若い人とよく話をします。なんとか若い人たちを大いに環境に引きずりこみたいのですが、なかなかのってくれません。でも中には「環境に関係のある仕事をやってみたい」という人もいます。こうした人たちには情報を流してあげる必要があると思うのです。となりの国際交流の外人の方々を見ているとかなり情報を持っていますし、流しているように見えます。環境パートナーシップいわても各種事業を通していろいろな階層、特に若い階層に情報を発信するべきだと思います。

長澤 幹

会員拡大についてはやり方を考えるべきです。環境パートナーシップいわては入り口が広くて誰でも入れるのだから、勧誘しやすいのではないのでしょうか。環境パートナーシップいわてなのだからいろいろな団体や企業に直接働きかけるとか、いろいろな切り口があるはずですよ。今ここにおられる方々の中には会社のオーナーの方々もおられるわけで、お願いして社員の方々を勧誘することだって出来るわけですよ。極端に言えば県庁の職員が入ってくれば5千人の会員になるわけですよ。それぐらいの行政支援をするという意識があっても罰があたらないと思います。こういったことは公に認められた環境パートナーシップいわてからできることなのです。

次世代に対する環境責任なのです。どうでもいいというわけにはいかないのです。活動のベースにある資金確保という点からいっても、会員獲得は大事な話だと思います。

高橋大等

前に一村一品運動の中に「自転車CO2を減らそう運動」というのがあったと思いますが、その後どうなっているのでしょうか。折角のアイデアなのですから発展させるべきだし、追跡調査が必要ではないかと思っています。環境運動には柱が必要です。もしそうした運動に参加した人には、家に帰ってもCO2削減に向けて、電気を節約するとか余計なごみを出さないとか、何かしら行動すると思うのです。

司 会

今日は皆さんから沢山のご意見をありがとうございました。これで出し尽くされたとは考えておりません。これからもメール・FAXでも結構ですから折に触れご意見をお送りください。お待ちいたしております。

それから本日のまとめはあえていたしません。内容を整理して次の理事会にかけて、検討委員会を立ち上げて、本日のご意見に対応して参りたいと考えております。本日は長時間ご協力ありがとうございました。

討論会の内容は紙面上の都合で少々割愛させていただきましたことをご了承ください。
討論会での皆さんのご意見は会の活動に出来るだけ反映していきます。
又、環境パートナーシップいわて意見の窓口（担当渡邊・加藤）は常にお受けいたしますのでよろしく
お願いいたします。



土日環境学習講座 10月

10月のテーマ

「今、からだが危ない・・・健康問題の傾向と対策」

●会場 アイーナ5階 環境学習交流センター（一部変更あり）

●10月10日（土）13:00～14:30

「環境汚染物質による健康影響」

講師：板井 一好（いたい かずよし）

岩手医大医学部衛生学公衆衛生学講座 嘱託教授

会場：ホテルメトロポリタン盛岡（姫神）

●10月11日（日）13:00～14:30

「環境汚染物質による健康影響」

講師：仲井 邦彦（なかい くにひこ）

東北大学大学院 医学系研究科環境保健医学 准教授

会場：一関市 いわて一関みちのく博物館 Point 1

●10月17日（土）14:00～15:30

「物忘れ？もしかしてそれって、認知症？」

講師：桑田 知之（くわた のりゆき）

くわた脳神経外科クリニック



●10月18日（日）13:30～15:00

「疫学研究は面白い」

講師：丹野 高三（たんの こうぞう）

岩手医大医学部衛生学公衆衛生学講座 嘱託講師

●10月25日（日）13:30～15:00

「メタボリック症候群のひみつ」

講師：大澤 正樹（おおさわ まさき）

岩手医大医学部衛生学公衆衛生学講座 講師

●10月31日（土）13:00～14:30

「中高年登山の医学講座」

講師：中屋 重直（なかや しげなお）

岩手医科大学医学部客員教授

土日環境学習講座：土日の午後、少しまじめに“環境”を学び、ちょっと真剣に“環境”を考えてみませんか？どなたでも興味のある講座にご自由に参加いただけます。

お問合せ：環境学習交流センター

TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753

E-mail:eco@aiina.jp



‘09/ 7/ 4（土）

青年海外協力隊OG講演会

～食から見たインドネシアと日本～

農業組合法人 宮守川上流生産組合
事務局オペレーター
樋田陽子氏を招いて



‘09/ 8/ 2（日）

ラベンダーステックづくり

岩手県農業農村指導士
うわのりんご園
上野かなえ氏を講師に招いて



会員だより

◆地域とはじめる環境報告会

●開催日時場所

- 10月 4日(日) 13:30~16:00
新日本製鐵(株)釜石製鐵所(釜石市)
- 10月20日(火) 13:30~16:00
(株)十文字チキンカンパニー(二戸市)
- 10月21日(水) 13:30~16:00
リコー東北(株)岩手支社(盛岡市)
- 10月24日(土) 13:30~16:00
岩手スリーエム(株)(北上市)
- 10月26日(月) 13:30~16:00
東京エレクトロン東北(株)(奥州市)
- 10月27日(火) 13:30~16:00
積水メディカル(株)(八幡平市)
- 10月27日(火) 13:30~16:00
太平洋セメント(株)大船渡工場(大船渡市)
- 10月29日(木) 13:30~16:00
(株)川徳(盛岡市)
- 10月31日(土) 13:30~16:00
川口印刷工業(株)(盛岡市)
- (株)デジアイズ(奥州市)
- 11月 3日(火) 13:30~16:00
盛岡セイコー工業(株)(雫石町)
- 11月 4日(水) 13:30~16:00
小岩井乳業(株)(雫石町)
- 11月10日(火) 13:20~16:10
日本地下石油備蓄(株)久慈事業所(久慈市)
- 11月11日(水) 13:30~16:00
明治製菓(株)北上工場(北上市)
- 11月12日(木) 13:30~16:00
岩手東芝エレクトロニクス(株)(北上市)
- 11月13日(金) 14:00~16:00
花巻第二工業団地産業廃棄物研究会(花巻市)

●内容

事業内容及び環境への取組に関わる、工場・事業場見学、意見交換

●申込み 10月7日まで

●問合せ連絡先

岩手県環境保全連絡協議会
TEL 019-621-1890
岩手県環境保全課 TEL 019-629-5356

◆ECO検定試験対策セミナー

- 日時 平成21年11月8日(日) 9:00~17:00
- 場所 盛岡商工会議所 3階 会議室
盛岡市清水町14-12 019-624-5880
- 会費 3,000円
- 対象 eco検定試験を受検予定の方 100名
- 締切 平成21年10月30日(金)
- 問合せ・セミナーについて
NPO法人岩手県カウンセラー協議会
TEL 0197-62-4147
FAX 0197-62-4157
- 検定について
盛岡商工会議所地域活性化支援チーム
TEL 019-624-5880
FAX 019-654-1588

◆団体活動PR募集について

毎月岩手日報で「環境通信」スペースをいただき、皆さんの活動紹介をさせていただくことになりました。内容詳細については10月5日岩手日報「環境通信」の欄をご覧ください。活動内容を環境パートナーシップいわてまでお送りください。

~~わたしの一言~~

投資

加藤 淳

株に投資をして儲けた、損をしたととかく言い合っている。どれくらいかと思うと「1ヶ月でこれくらいだ」という返事がかえってくる。実はそれは投機である。

資を投げるとは、もっと長期に渡る。長期に効果を図るものである。

お金だけではない。環境も投資である。行動がすぐ自らの効果にはならない。しかし、毎日少しずつを投資することで効果は期待される。

各人がわずかずつの便利さを環境のために投資する心構えが肝要である。

編集後記

6月28日には市民提案プロジェクト、総合討論会、総会、懇親会と盛りだくさんの事業が展開されました。第13号は、目指す環境パートナーシップいわてについての総括として少

しでも会員皆様と紙上で共有できれば幸いです。

■お願い! ■ 環パいのニューズレター編集スタッフを募集しています。

発行：NPO法人 環境パートナーシップいわて

〒020-0124 盛岡市厨川5-8-6 TEL 019-643-8570 FAX 019-643-8573 e-mail kanpai@utopia.ocn.ne.jp
環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センター・岩手県住宅用太陽光発電導入支援センター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 岩手県民情報交流センター・アイーナ5F
TEL:019-606-1752 FAX:019-606-1753 TEL:019-656-9391 FAX:019-656-9392 (太陽光窓口)